

農地・水・環境保全向上対策「みえのつどい“2010”」を開催しました ～世代を超えて地域の“きずな”を育もう～



活発な意見交換が行われた座談交流会

去る1月15日(土)に津市の三重県総合文化センターにおいて、県内の農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる活動組織315組織を対象として「～世代を超えて地域の“きずな”

を育もう～」をテーマに農地・水・環境の良好な保全とその質的向上を図る活動をより一層活発に取り組んでいくことを目的に、活動組織相互の情報交換や意見交換を行う「みえのつどい“2010”」を開催した。

本年度で3回目を迎える「みえのつどい」は、多くの組織の方が感じている充実度・満足度をより向上させ、また、子供を含めたいろいろな世代にもその活動内容を知ってもらうため、参加型のイベントにしたいという想いから2部構成とした。

午前中の第1部では、多目的ホールにて事前申込みされた活動組織の組合員約180名を対象に18のテーブルに分かれ、自由にお茶やお菓子等を飲食しながらくつろいだ雰囲気の中、農地水に係る4つのテーマ(「次世代リーダー育成」、「施設の維持管理」、「生態系保全」、「景観形成」)について活動組織が抱える課題等に活発な意見交換が行われた。

午後からは会場を中ホールに移し、約600名が参加した第2部が開催された。

まず、三重県農地・水・環境保全向上対策協議会の渡邊信一郎会長(三重県農水商工部長)の主催者挨拶があり、そして来賓としてご臨席された野呂昭彦三重県知事、末松則子三重県議会議員防災農水商工常任委員会委員長から挨拶をいただいた。



三重県農地・水・環境保全向上対策協議会渡邊会長挨拶

引き続き、優秀活動表彰に移り、司会者が受賞された4つの優秀活動組織の活動内容を映像を流しながら紹介した後、渡邊会長より各活動組織の代表者に表彰状が授与され、その後渡邊会長、野呂知事、末松委員長を囲んで、壇上で記念撮影に応じた。



表彰された優秀活動組織の記念撮影

優秀活動組織の活動状況

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会 会長賞

【共同活動部門】

○原農水環境を守る会(度会郡玉城町)

原土地改良区、自治会、子供会、婦人会、老人会、消防団を中心とした活動組織が農道や水路の草刈り、排水路の泥上げ、パイプライン、溜池などの保全管理、水路側壁等の補修、施設の機能診断、補修技術の研修、生き物観察会、河川の水質保全検査、コスモスの植栽、道路清掃を実施している。

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会 会長賞

【営農活動部門】

○緑ゆたかな北小松をまもる会(四日市市)

平成18年1月に設立した集落内全農家57戸の参加による法人組織「農事組合法人キタコマツファーム」が、16ヘクタールの水田で農薬や科学肥料をできるだけ使用しないコシヒカリや大豆の栽培をしている。

コシヒカリは、人と自然にやさしいみえの安心食表示制度にも登録して、安全安心なお米として、学校給食や集落内農家等へ販売している。

優秀環境向上活動賞【モデル部門】

○依那具の環境を守る会(伊賀市)

依那具地区は伊賀市の中心部にある農業地域であり、将来にわたり、農業・農村環境を維持するため、非農家も含んだ住民全体で地域の保全活動に取り組んでいる。

特に、「依那具花いっぱい運動」として、各戸でプランターで花を育て、農道沿いに並べると共に、伊賀鉄道沿

表彰活動組織

賞の名称	表彰活動組織
三重県農地・水・環境保全向上対策協議会 会長賞「共同活動部門」	原農水環境を守る会(度会郡玉城町)
三重県農地・水・環境保全向上対策協議会 会長賞「営農活動部門」	緑ゆたかな北小松を守る会(四日市市)
優秀環境向上活動賞「モデル部門」	依那具の環境を守る会(伊賀市)
優秀地域ぐるみ活動賞「パブリシティ部門」	どじょっ子くらぶ(いなべ市)

線の遊休農地にコスモスを植栽し、地元住民だけでなく、鉄道利用者の目を楽しませている。また、子供たちと共に、自分たちの住む地域の水路などで、水質調査や生きもの調査を行い、環境保全への関心を高めている。

優秀地域ぐるみ活動賞【パブリシティ部門】

○どじょっ子くらぶ(いなべ市)

いなべ市藤原町長尾地区の38戸世帯で自治会、老人会、子供会、婦人会及び農家組合が構成員となり活動を行っている。小規模な集落であるが、様々な活動を企画し、それを「どじょっ子通信」により情報提供することで、地域の住民が年齢、農業者・非農業者を問わず参加している。「どじょっ子通信」は、平成19年の活動以来、号外を含めて31回発行している。



みんなでトーク“農地水”

休憩を挟んで、舞台と客席を一体として農地水を話合ってもらった「みんなでトーク“農地水”」にプログラムを移した。

コーディネーターの東京農工大学福井隆客員教授が午前中の「座談交流会」で出された活発な意見に対し、4つのテーマごとに意見を述べた後、壇上の13名のパネラーが午前中の議論を踏まえ、活動の特徴・苦労話などを紹介した。全員の紹介の後、福井コーディネーターはテーマを「いろいろな人の参加」に絞り、客席に意見を問いかね、舞台と客席の間で活発な意見交換がなされた。



メダカのコタロー劇団によるアニメ紙芝居

再び休憩を挟み、農村環境の大切さを伝えようと活動している「メダカのコタロー劇団」とのコラボレーションにより、農地水活動の次世代へのつなぎや活動組織以外の子供



水土里ネットみえ服部会長
閉会挨拶

を含めたいろいろな世代にも広く活動PRを行うため「農村環境アニメ紙芝居」を上演し、参加した子供のみならず大人の方々にもこの活動の大切さを伝えることができた。

上演後、協議会事務局である水土里ネットみえの服部会長の挨拶で閉会となった。

また、中ホールのエントランスでは、終日「つどい」に参加した活動組織からの出展された日頃の活動写真パネル、のぼり、パンフレットなどの展示や水路の目地補修材、カバープランツ、共同活動支援ソフトなどの関連商品を紹介する情報コーナーが設けられ、「つどい」の開始前や休憩時には、多くの参加者で賑わっていた。



エントランスの情報コーナー

「つどい」終了後は、会場を市内のベルセ島崎に場所を移し、活動組織相互の交流を深めるため「交流会」も行われ、参加者たちはそれぞれの活動組織が抱える問題点やその解決方法について意見交換をし、親交を深めていた。

農地・水・環境保全向上対策の活動も4年目となり、本年度の「つどい」はこれまでの活動組織の情報交換、つながりを深める場の提供からそれぞれの活動組織が抱えている課題を話し合う場の提供と併せ将来の三重の農村環境を担う子供たちを対象として大人と一緒に参加する「アニメ紙芝居」などの新たな試みを行った。

今回、実施したアンケートより回答者の69%が「つどい」に他の活動組織との交流を評価しており、92%が座談交流会の情報共有が役に立ち、さらに93%が他の活動組織の情報が今後の活動に参考にしたいと高い評価を得て、地域での農地水環境活動に期待する声が多く聞かれた。

また、①代表者の意見よりもっと一般参加者の意見交換が活発化するようにしてほしい、②みんなでトークのパネラーの人数が多すぎる、③女性の参加が少ない等の意見もあり、主催者としては、これらの意見を活かしつつ最終年度の活動を締めくくっていききたい。



交流会での県岩崎総括室長
挨拶